ハノーヴァー朝（出典: フリー百科事典「ウィキペディア（Wikipedia）」）

ハノーヴァー家（House of Hanover）は、ドイツの**ヴェルフ家**（ブラウンシュヴァイク＝リューネブルク家）**の流れを汲む神聖ローマ帝国の諸侯の家系**で、ブラウンシュヴァイク＝リューネブルク公領の分邦の一つカレンベルク侯領（1692年からハノーファー選帝侯領）の君主の家系であったが、**ステュアート家の血筋を引いていたことからイギリスの王家となり**、ハノーファー選帝侯領（1714年からハノーファー王国）とイギリスの君主を兼ねる同君連合体制をとった。1837年、女王ヴィクトリアの即位によりハノーファー王国との同君連合を解消した。

1901年のヴィクトリアの死後は、夫（王配）であったアルバートの家名を取って、サクス＝コバーグ＝ゴータ朝と称される。第一次世界大戦中に、敵国ドイツ帝国の領邦の名が冠されている家名を避け、1917年に王宮の所在地ウィンザーにちなみ**ウィンザー家と家名を改称**した。これらは別項で扱うが、ヴィクトリアの血統が断絶したわけでないため、ハノーヴァー朝の継続と見なされることがある。
なお、初代（ジョージ1世）から4代（ジョージ4世）まで、連続して4人の「ジョージ」（ゲオルク）という名の王が在位していたことから、この時期を特に**ジョージ王朝**（**時代**）と称することがあり、文化史ではこの時期を中心とした「ジョージアン時代」という区分もある。